

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 7 月 1 日現在

機関番号：37402  
研究種目：若手研究  
研究期間：2018～2021  
課題番号：18K12986  
研究課題名（和文）近隣地域再生における「就労」の導入と住民の主体化に関する社会福祉援助論的研究  
  
研究課題名（英文）A Study of the Formation of Residents Initiatives through "Employment" in their Neighborhood  
  
研究代表者  
仁科 伸子（NISHINA, Nobuko）  
  
熊本学園大学・社会福祉学部・教授  
  
研究者番号：30707683  
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では人口減少し空地が増えたシカゴ市において、非営利組織などにより都市農業が行われ、若者や成人の就労支援の一環として活動すると同時に、フードデザートとなっている都市の荒廃地域におけるフードマーケットを開催し、新鮮な食料の供給に一役を買っている。都市農業では教育やスキルにあまり関係なく誰でも参加しやすい仕事であり、その成果がわかりやすい。参加者は、刑余者、失業者、ホームレスなどの困難を経験した人々であり、単に仕事を与えるだけでなく多様なサポートを必要としている場合が多い。例えば家庭内の家族に対する相談やサポート、就労の際に必要な履歴書の書き方などきめ細やかなサポートが実施されている。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

就労支援は、生活困窮者、高齢者、障害者、貧困な人々に不可欠なサービスであるが、求職者のスキルと市場のニーズが合致しない側面もある。都市農業は、人口減少による空き地の増加という課題と就労が困難な人々に対する就労支援という二つの課題に対応しており、農産物を生産して売ることによって、さらに地域にも貢献している。本研究の課題である就労困難な人への就労支援において農業が果たす役割は大きい。今日、日本でも社団会社の就労支援事業において農業との連携事例が多くみられるが、世界的な事例を検討することによって今後、異なる対象者や生活困窮者支援において示唆を得ることが可能である。

研究成果の概要（英文）：In this study, in the city of Chicago, where the population has decreased and the number of open spaces has increased, urban agriculture has been carried out by non-profit organizations, among others, and it is an active part of employment support for young people and adults. The produce is sold in local markets and plays a role in supplying fresh food to its urban neighborhoods. Urban agriculture is something in which anyone can easily participate regardless of education and skills, and the results are easy to understand. Participants are those who have experienced difficulties in their lives, such as ex-convicts, the unemployed, and the homeless. They often need more than just a job, requiring a variety of support systems, such as consultation and support for family members, housing, education, social service, and how to write a resume necessary for job hunting.

研究分野：社会福祉学

キーワード：就労支援 農福連携 都市農業 就労支援 ファーマーズマーケット

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、「女性困窮者の就労による社会包摂及びそのプロセスに関する社会福祉援助方法論的研究」(科研 26380763、平成 29 年度終了)及び民間助成によるイングルウッド近隣地域研究の継承的、発展的研究である。本研究の着想に当たってはこれらの 2 つの研究が大きく関係している。筆者は、2008 年～12 年には 16 の近隣地域においてシカゴをフィールドとして近隣地域を基盤とした地域再生について研究し、2014～15 年、同市イングルウッド地区において、100 年間の地域の盛衰と 10 年間の近隣再生について研究した(第一生命財団研究助成)。ここでは、人口が減少し衰退した都市内の空き地を農地に転換し、農業生産技術の習得と更生のための職業訓練を実施するプログラムが導入され修了後定着率 8 割を超える成果を収めていることが明らかになった。2014 年以降、同市ローガンスクエア地区では、学校で授業支援に参加した経験があるヒスパニック系の母親たちの社会包摂と主体化のプロセスを研究し、「就労」エンパワメントの力動について量的研究によって実証した(科研 26380763)。これらの研究から、就労が近隣地域を対象とした介入において単なる参加にとどまらない大きな意味を持つと確信し、各近隣地域で多様な就労プログラムとプログラムが展開されていることから、これらについての総合的かつ基礎的な研究の必要性を強く認識した。

先行研究や関連する研究は次のとおりである。地域を基盤とするソーシャルワークはジェネラル・ソーシャルワークとして理論的に位置づけられている(岩間 2011)。しかし、個と地域の一体的支援においてのソーシャルワークの機能的側面については研究が進んでいない。社会的に排除された人々や困窮者の就労に関しては、アクティベーションとワークフェアの研究があり、福祉レジームとの関係性の中で研究されてきた。国内では宮本太郎による『生活保障 排除しない社会へ』(2009)のほか武川、埋橋による研究が代表的である。また、欧州の各国の政策を紹介する研究論文が 2005 年以降多数ある。欧州では、職業訓練を経て就業が難しい対象者をも含めて包摂する社会連帯経済の考え方が示されている(Lipietz 2001)。欧州で生まれた社会連帯経済は、互酬性や組織民主制などの理念に裏づけされた協同組合、社会的企業、NPO 等によって担われており、これらの組織や事例についての研究の集大成としてDefourny& Borzaga による The Third Sector がある。また、協同組合や社会的企業、NPO を対象とした研究が行われている。福原は、「日本社会の再生 - 社会的つながりと社会連帯経済 - 」(2013)の中で、社会的連帯経済の重要性を指摘するとともに、社会福祉の役割を「つながり」をもたらすものとして位置づけたが、これに対して牧里は「市場原理に基づく労働市場につなげる支援が福祉支援であるのか(牧里 2013)」と疑問を投げかけている。このように、先行研究では、アクティベーションやワークフェアについては社会政策的観点からの研究が中心であり、近隣地域を対象とする社会福祉援助方法論の深部に至る研究はまだない。また、コミュニティ・オーガナイズング(地域援助方法論)における「就労」のメカニズムに関する理論的分析はアメリカでも行われていない。そこで、本研究では、近隣地域再生における就労プログラム導入の実態と成果に関して社会福祉援助方法論の観点から研究を進めるものである。

### 2. 研究の目的

アメリカでは「福祉から就業へ」の社会福祉改革以降、多様な形で就業支援プログラムが導入されてきているが、コミュニティ・オーガニゼーションという住民主体化のプロセスの中で導入されていることの意味、効果、及び理論的位置づけを解明していく必要がある。

現在シカゴ近隣地域の中で 36 地域が地域再生に関与しており、うち 22 地域が既に地域再生プログラムを立案している。このような地域は、失業率が高いことから、「就労支援」や「就労の場の開発」は大きな課題である。近年、再生プログラムにおいて、ワークフェア、中間就労、社会的役割の付与といういくつかの就労支援プログラムが導入されている。これらのプログラムは、地域住民をも対象としており、社会的に排除された層や一般就労が難しい人々のみを対象としているわけではない。

本研究では、就労プログラムを導入している近隣地域における「就労」プログラムの対象、内容、位置づけ、及び成果についての基礎的研究を行うことを目的としている。本研究の最終目的は、高齢化が進む日本におけるコミュニティ援助プログラムと技術の向上に寄与することであるが、計画期間内における研究の具体的な目的は次の通りである。

- 就労プログラムの内容と手法及び成果の検証
- 理念及び組織的特徴と就労プログラムの導入の関係性に関する分析
- 住民の社会的包摂、主体化とエンパワメントに焦点を置いた社会福祉援助方法論としての分析
- 政策及び財源、中間支援組織の関与に関する分析

### 3. 研究の方法

シカゴ市内において就労支援プログラムを実施している NPO やコミュニティ・オーガニゼーションに対して半構造化インタビュー調査を実施して、その結果を取りまとめた。

### 4. 研究の成果

#### (1) アクティベーションとエンパワメント

これまで見てきたように、ソーシャル・エクスクルージョンを解決した状態が、ソーシャル・インクルージョンであり、ソーシャル・インクルージョンには、「雇用確保力」や「適応能力」を高め、労働市場における個々人の競争力を高めることを進めるという意味がある。EU においては、国家が「能動的な福祉国家」としてその役割を果たすことを提起している [中村健吾, 2002]。ソーシャル・エクスクルージョンによって、パワーレスな状態に陥っている人々の「雇用確保力」や「適応能力」を高め、労働市場における個々人の競争力を高めるための援助を行うこと、つまりエンパワメントが求められている。

エンパワメントは、個人や集団の援助に用いられるタームであり、ソーシャルワークや途上国の開発援助に共通する援助の概念の一つである。ジョン・フリードマンやソロモンが定義したように、力をはく奪された状態、あるいは力（権力の基盤）へのアクセスがない状態に対して、権力の基盤への接近の機会を得ることによって意思決定の機会から排除されていた人々が自ら力を獲得する道を拓くこととされている [Friedman, 1995] [Solomon, 1976]。

労働や社会的活動から排除されてる人々を労働を通じて狭義のアクティベーションは、労働の対価として賃金が支払われるよりは、むしろ居場所としての就労の場を提供することを含有している。例えば、労働市場において雇用されない対象者の居場所として、その特性に合った働き方ができる場を提供することや、就労訓練を行うことなどが含まれており、労働は、必ずしも給付の必要条件ではない。これに対して、ワークフェアは、給付の必要条件として能力の開発や就業を促すものである。このワークフェアに関しては、給付と就労をセットにすることによって賃金水準の低下を招くというスピーナムランド法による失敗を繰り返すのではないかということが複数の研究者によって指摘されている [Byrne, 1999] [Taylor, 2011]。

ディスエンパワメントの状態から、労働によって、賃金を得ることができるようになり、自尊心を取り戻し、社会的な地位やつながりを回復するためにコミュニティはいかなる役割を果たすことができるのであろうか？

#### (2) イングルウッドにおけるアクティベーションとエンパワメント

ここでは、シカゴ市のイングルウッドにおける長期失業者や刑余者の支援について考察する。

サウス・シカゴにあるイングルウッドは、シカゴ市の中心部からわずか車で 20 分の距離にあるが、貧困率、失業率、犯罪率がシカゴ市の平均を大きく上回っている地域である。地域の人口の半分が失業している状態である。男性失業率が高い地域では、犯罪率が高い [Wilson, 1987] と言われているが、犯罪率はシカゴのコミュニティ・エリアの中でも群を抜いている。1950 年代までは、シカゴ市第 2 の商店街といわれる商業地域が存在したが、人口減少と犯罪の増加によって 2000 年ごろには完全に衰退した。地域からはスーパーマーケットが撤退し、ファストフードの店が点在するフードデザートとなっていた。地域には空き家と空き地が増え、夏には草が生えて広々としている。シカゴ市は固定資産税が支払われないために接収した土地を 1 ドルで地域住民や NPO に払い下げている。

非営利組織グローイング・ホームは、1 ドルで売り出されていた土地を二区画買って耕し、都市内農業を営んでいる。ホームレスや刑余者など排除されやすい人々に対して野菜作りと販売などを訓練すると同時に食品衛生管理者の資格を取得する支援をしている。訓練期間は 14 週間で野菜の育て方、市場での販売、履歴書の書き方や面接の受け方なども訓練する。午前中は畑で働き、午後には、園芸、土壌学、健康、栄養、マーケティング、セールスなどを座学で学ぶ。この事業は、当初はホームレス支援として始まったが、現在では、訓練生の多くは刑務所のソーシャルワーカーから紹介されてやってくる。訓練生は、ほとんど近所から歩いて通ってきている。貧困のため罪を犯したときに弁護士を頼むこともできないため刑期を務める人が多い。貧困により、教育を受けられなかった人や、薬物依存症によって犯罪を繰り返す人などがいる。しかし、訓練終了後の仕事への定着率が高い。2016 年の実績では、プログラム修了者の 95% が仕事に就き、一か月以上仕事を続けている率は 97% に上る。

グローイングホームは、職業訓練だけでなく住宅、子育て、健康、高校卒業資格試験など個人のニーズに応じたサービスを展開する。例えば就職に不利な条件となる犯罪歴の抹消などの法的相談にも応じている。2017 年には、専門に相談を行うソーシャルワーカーを採用した。精神疾患や依存症などを抱える訓練者に対して、専門的な支援につなげる必要があるためである。

アメリカでは、社会経済的な格差が拡大し、それが、人生の中で与えられる機会や教育の格差ともな

っている。グロウイング・ホームは、このような個人に対して農業を通じて生きていく方法を含めてサポートしている。訓練生が暮らす環境は、いつ犯罪に巻き込まれてもおかしくない状況である。就労のスキルと自分自身や他人を大切に考えて自分らしく人生を楽しむ生活を獲得することが求められる。ソーシャルワーカーは、訓練を終えて就職した50代の男性からハガキをもらった。そこには次のように書かれていた。「仕事をしたお金で、生まれて初めてアリゾナにホリデイに来て、最高の気分だ。新しい自分を見つけさせてくれてありがとう。」

アメリカでは、ソーシャル・インクルージョンというタームはほとんど使用されていないが、グロウイング・ホームの実施しているサービスは、人々をエンパワメントし、ソーシャル・エクスクルージョンからソーシャル・インクルージョンに移行するための媒介となっている。この取り組みの重要な点は、参加者がトレーニングを受けることによって生産活動に従事し野菜をたくさん売るということを目的にしていない点である。あくまで、その人がいかににより良く生きることができているのかを考えてプログラム実施され、かつスタッフも訓練生を人間として暖かく見守る態度で接している。

この事例を見ると、訓練を受ける人々は、自分暮らしているコミュニティの中で支援を受けているが、自家用車を所有しない層にとって、自分が暮らすコミュニティにおいて就業支援を受けることができ、利便性が高い。この支援を行っている人々は、職業訓練や農業、また、ソーシャルワークのプロフェッショナルである。

### (3) ウッドローンにおける就業支援

ウッドローンは、ミシガン湖の沿岸に立地するサウス・シカゴのコミュニティ・エリアである。人口約24,000人の地域で、失業率は約23%である(US Census 2015)。シカゴ市全体の失業率は12.1%と比較すると二倍近い失業率である。ウィルソンの指摘通り、産業構造の変化により、男性非熟練労働者の失業率が高い状態が続いている [Wilson, 1987]。シカゴの中心部まで地下鉄が通っており、利便性の高い地域である。

2017年に始まったジェントルメンズ・クローゼット事業は、地域のコミュニティ・オーガナイザーであるテレンス・ミラーが主催する就業支援事業である。ここには、あらゆるサイズのスーツやシャツ、ネクタイ、ベルトなど、仕事の面接や、仕事に行くための衣料がすぐに着用することができるきれいな状態で集められている。フィッティングをしてくれるスタッフがいる。スーツやアクセサリーは、すべて寄付されたものである。最近では、リタイアするシカゴ大学の教授が3着のスーツを寄付してきた。

産業構造の変化による長期の失業者やブルーカラー層は、仕事を得るためにはサービス業で働けるように訓練する必要があるが、服装もそれに合わせて交換が必要である。

テレンスは、地域の生え抜きのコミュニティ・オーガナイザーとして、また、宗教家として地域において、20年以上働いており、地域をよく知っている。人々が就職する際に、面接に行くためにふさわしい洋服を持っていないことも、買う余裕がないことも理解していた。そこで、寄付を募って、2017年にジェントルメンズ・クローゼットを始めたのである。ここでは、就職面接にふさわしい服装がすべて無料で手に入る。ジェントルメンズ・クローゼットのスーツを着て面接に行き、就職していった若者は多い。

最初のクライアントは、2年間ホームレスになっている青年だった。フルタイムの仕事を得た後、ビデオやグラフィックの編集者として働くようになっていく。テレンスは、「心地よい服装なら、気分もよくなり自信も生まれる。だから、面接もうまくいく」という。現在では、履歴書の書き方や、コンピュータースキルなど、就職するための支援を全般的に行うようになっていく。始まってから4年目の新しい事業であるが、地域の人々の生活をよく知っていたからこそ、就職のためのスキルだけでなく、きめ細やかな支援を行うことができている。

### (4) ローガンスクエアのサクセスストーリーにおけるエンパワメント

スー・ホンは、ローガンスクエアで、移民としてアメリカにやってきた女性たちが、ペアレントメンターとして活動したのち、地域のコミュニティ・オーガナイザーや教員となって地域貢献していることを明らかにした [Hong, 2011]。筆者は、ペアレントメンターに対して、いかに参加者がエンパワメントされたのかということについてヒアリング調査とアンケート調査を実施した。ローガンスクエア・コミュニティ・エリアの歴史を踏まえつつ調査結果を考察する。

ローガンスクエアは、シカゴ市の北西部に立地するコミュニティ・エリアである。この地域は、1871年のシカゴ大火後急速に発展した。建築規制によってシカゴ市内は耐火建築物しか建てられなくなったのに対して当時は農村地域だったローガンスクエア付近は、安価な木造住宅の建築が可能だったため、急速に住宅地が形成されていったと言われている [Patterson, 2004]。20世紀後半には、メキシコを中心

としたラテンアメリカからの移民が多く移り住んできている。この地域のメインストリートは、ミルウォーキー・アベニューであるが、2010 年ごろからは、都市を好むヤング・プロフェッショナルが大通り沿いの住宅を購入してリノベーションして住み始め、ジェントリフィケーションが始まっている。

ローガンスクエアには、ローガンスクエア・ネイバーフッド・アソシエーション（以降 LSNA と省略）というコミュニティ・オーガニゼーションが 50 年以上も活動を続けており、地域の住民の立場に立った活動を行っている。LSNA は、1962 年にレッドライニングに反対するために設立されたアリンスキータイプのコミュニティ・オーガニゼーションを得意とする組織である。現在の LSNA の活動の大きな柱はアフォーダブルな居住の確保と教育である。1995 年に LSNA が始めたペアレントメンター事業は、移民の母親たちを有償ボランティアとして、地域の小学校に派遣し、英語を母国語としない子どもたちの教室での勉強の手伝いをし、ドロップアウトを防ぐことを目的としている。

ペアレントメンターは、月曜日から木曜日の間教室で授業について行くことが難しい生徒のサポートを行う。各小学校に配置されているコーディネーターが教員の求めに従って、ボランティアの配置を行っている。金曜日には、コーディネーターや、LSNA の職員が提供する研修会が行われる。そのプログラムは多様であり、教室でのサポートの方法や技術、自己覚知、自己の目標の設定、家族や自分自身に役立つ社会的サービスについての情報提供、政治、選挙、地域の安全に関する討論、女性や移民の権利擁護、健康管理など多岐にわたる。LSNA は、事業の主体、計画推進者として、州からの補助金や助成財団からの助成の獲得、全体のコーディネート、第二外国語として英語を学ぶためのプログラムや、バイリンガル教員となるためのプログラムの提供などを実施している。LSNA は、ペアレントメンター事業への補助金獲得や教育問題についての政治的意見を表明し、ペアレントメンターたちは、バスに乗って州議会のあるスプリングフィールドヘデモやロビー活動に行くこともある。市議会議員や州知事選挙などでは選挙活動も行う。

1 年間の活動を終えると、メンターの中には、就職する者もいる。また、進学して教育者を目指す者、LSNA やほかのコミュニティ・オーガナイザーになるものもいる。実際に小学校のバイリンガル教員に転身し、フルタイムで働いている者もいる。

アメリカにおける移民の生活において、ディスエンパワメントやパワーレスを経験する機会は少なくない。筆者が調査を行った女性たちのインタビュー記録を見てみるとほとんどの人々が強いディスエンパワメントを経験している [仁科, 2015]。自国において知っていたアメリカ社会の自由や経済力は存在するが、自分たちの置かれた状況ではそれを享受できないと知った時に、深い無力感や悲しみに苛まれたと複数のインタビューへの協力者が言っている。そのうちの一人は、自国では大学を卒業して教育者として働き、夫とともに移民してきた。生活のために工場で三交代のシフトの夜の部で働き、二人でようやく暮らしていったが、夫のほかに話す人もなく、親戚も友達もなく毎日のように泣いていた。アメリカには思い描いていたような夢の生活はなく、出身国で待つ親戚からは仕送りや子どもの大学進学への協力金などを当然のように要求されるので、最も賃金が安い、最も厳しい条件の仕事に従事しなければならなかったことに絶望したという証言があった。仕事の厳しさによって絶望しただけではない。アメリカに来たことによって、社会経済的な地位も、持参した貯金の価値も自国にいた時と比べて低くなり、自分の能力や学歴や人間としての価値が低く評価されるような経験を重ねていくことによって打ちのめされ、パワーレスな状態になるのである。これに対して、仕事を得たことは、魂の回復ともいうべきエンパワメントをもたらした。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 仁科 伸子	4. 巻 78号
2. 論文標題 ビレッジ・ムーブメント 住み慣れた地域に住み続けるための活動 シカゴ・ハイパーク・ビレッジ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 くまもとわたしたちの福祉	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 仁科 伸子	4. 巻 77号
2. 論文標題 社会的連帯経済における協同による社会福祉創造の可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 くまもとわたしたちの福祉	6. 最初と最後の頁 2-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 仁科伸子	4. 巻 37
2. 論文標題 人口減少、高齢化社会において、住みなれた場所に住み続けるために	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 熊本公徳会機関誌「公徳」	6. 最初と最後の頁 12-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 仁科伸子	4. 巻 47
2. 論文標題 書評：マリリン・テラー著書『コミュニティをエンパワメントするには何が必要か』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域福祉研究	6. 最初と最後の頁 143-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 仁科伸子	4. 巻 17
2. 論文標題 書評：加藤泰子『高齢者退職後生活の質的創造 アメリカ地域コミュニティの事例』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 コミュニティ政策	6. 最初と最後の頁 145-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 仁科伸子	4. 巻 第47号
2. 論文標題 ディスエンパワメントからの回復に関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会福祉研究所報	6. 最初と最後の頁 3-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 仁科伸子	4. 巻 第74号
2. 論文標題 都市内の畑で職業訓練をするグロウイング・ホーム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 わたしたちの福祉	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 仁科伸子	4. 巻 第24巻
2. 論文標題 地域の小学校を基点とするコミュニティ・エンパワメントのプロセスに関する考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会関係研究	6. 最初と最後の頁 25-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仁科 伸子	4. 巻 第24巻2号
2. 論文標題 ウッドローン・コミュニティにおけるソウル・アリンスキー思想の継承とコミュニティ・オーガニゼーションの役割の変質	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会関係研究	6. 最初と最後の頁 65-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 仁科伸子
2. 発表標題 外国人労働者を受け入れたコミュニティの社会的課題
3. 学会等名 コミュニティ政策学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仁科伸子
2. 発表標題 高齢期に住み慣れた地域に住み続けるために考えること
3. 学会等名 熊本公德会75周年記念講演会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仁科伸子
2. 発表標題 共に支えあい、笑顔ある地域にするために必要なこと
3. 学会等名 天草市社会福祉協議会 (招待講演)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 仁科伸子
2. 発表標題 シカゴ市ローガンスクエア地域における移民女性の包摂とエンパワメントに関する研究
3. 学会等名 日本地域福祉学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 仁科伸子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 御茶の水書房	5. 総ページ数 191
3. 書名 『人口減少社会のコミュニティ・プラクティス 実践から課題解決を探る』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Research-based Knowledge about Social Work and Sustainability, Finland	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Aging & Social Change, Wienie, Austria	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------